

トラック、バス、タクシーも規制緩和の犠牲 ツアーバス事故は安売り競争の結果

(近畿地連)

2012年05月15日 近畿ブロックでも大坂城公園で、運輸業界労使約3000名を集め決起集会



トラック、バス、タクシー業界が合同で「燃料価格騰による経営危機突破全国統一行動」が5月5日行なわれ、近畿ブロックでも、大阪府中央区の大坂城公園に運輸業界労使約2千名を集めて決起集会を開催しました。燃料引き下げの施策を訴える大会決議を採択した後、雨の中、大阪府庁前等を通して北大江公園まで1時間余りデモ行進をして運輸産業の窮状をアピールしました。

主催者代表あいさつで近畿トラック協会坂本克己会長は「良くないことは安易な運賃競争である。ツアーバスによる大事故は安売り競争で安心・安全が損なわれた結果だ。バス、トラック、タクシーも規制緩和の犠牲になってきた。更に加えて、燃料の異常な高騰を押しつけられている。



価格を引き下げる施策や減税を求めて、今回北海道から九州まで全国同時にこの催しを行なった。

近畿2府4県の3つの事業団体がこのようにまとまり、行動を起こすのは歴史のうえで初めて。本日の集会は、額に汗して働く正直者がメシを食べていけるようにしていくきっかけにしたいと思っている」と述べました。来賓として民主党、自民党、公明党などの政治家や近畿運輸局石津局長らが多数参加し、代表挨拶をしました。集会には、運輸関係の労働組合も参加し、全自交近畿地協からは、兵庫地連7名を含め18名参加し、雨の中、大阪府庁前等を通して北大江公園まで1時間余りデモ行進をして運輸産業の窮状をアピールし、最後まで行動しました。